

学校目標・経営方針	文武両道の実践を軸に心身を練磨し、高い知性と教養、たくましい身体と精神力、豊かな感性をあわせ持つ生徒を育成する。
-----------	--

山梨県立日川高等学校校長 橋田 浩

本年度の重点目標	1 文武両道を実践する強い意志を育み、確かな学力の定着と指導と評価の一体化に努めた授業の実践を図る。	達成度	A	ほぼ達成できた。(8割以上)	評価	4	良くできている。
	2 生徒一人ひとりの個に応じた進路実現に向けたきめ細やかなキャリア教育の実践に努める。		B	概ね達成できた。(6割以上)		3	できている。
	3 規律ある学校生活をととして、自らを律し行動できる力、規範意識や高い倫理観の育成を図る。		C	不十分である。(4割以上)		2	あまりできていない。
	4 安心でき信頼される学校づくりの推進に努める。		D	達成できなかった。(4割以下)		1	できていない。

自 己 評 価				年度末評価(2月6日現在)		
本年度の重点目標				自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標			
1	文武両道を実践する強い意志を育み、確かな学力の定着と指導と評価の一体化に努めた授業の実践を図る。	年次ごと家庭学習習慣の向上に努め、4時間学習・2時間練習を確立する。	授業アンケート実施 学習記録の電子化 下校時間の徹底	・多くの授業に積極的に参加(92%)し、学習への取組を肯定的に評価した生徒は約65%であり、授業の予習・復習や目標とする家庭学習時間を確保を達成できた生徒は約60%に留まっている。 ・ICTを積極的に活用し、Classi活用も含めて授業改善につなげている評価が高くなっている。 ・教員全体で各教科ごとに「指導と評価の一体化」による研究を深め、授業改善に取り組めた評価が高まっている。	B	・家庭学習の時間の確保に向けてHR担任、部活動顧問、家庭の協力・働きかけを実施し連携して粘り強く指導に当たる必要がある。 ・生徒には学習目標を明確にさせ、その目標を達成するためのロードマップ(学習計画)を描かせる指導が必要となる。 ・さらなるICT活用とその工夫を実施し、生徒の主体的な学習活動や教員の事務作業の軽減を目指す。
		学習目標の明確化及び指導と評価の一体化に努め、ICTの積極的活用を行い、主体的対話的で深い学びの実現による授業力の向上を図る。	BYOD、大型モニターの活用 職員研修の実施			
		授業改善につながる授業アンケートの見直しと実施を行う。	授業アンケートの見直しと実施			
2	生徒一人ひとりの個に応じた進路実現に向けたきめ細やかなキャリア教育の実践に努める。	サタデーサブリ・きずなの活用及びキャリアパスポート等による振り返りから主体的に進路を選択する能力を育成する。	やまなしキャリア・パスポート及びClassiの活用	・学校行事や特別活動等において多くの生徒が将来とのつながりを見通しながら主体的に学ぶ意欲を促進させるとともにキャリア形成の支えとして活用している。 ・数ある進路情報等を収集し、活用しよとする姿勢がある一方で、講演会等、進路行事で積極的に情報を入手する等、具体的な行動に繋がらない生徒もいる。 ・SSH課題研究に主体的に取り組み、自ら課題を発見し積極的に活動することによって、調整力や課題解決能力の育成につながっている。	A	・学習と課外活動(部活動を含む)との効率的な両立を目指し、継続して(土)(月)の時間を有効使用する。 ・山梨大、山学大との連携事業や地元企業等との共同研究を継続し、医療機関や県内外の高校との協関係を構築していく。 ・課題研究に取り組むSSIⅡ～Ⅲの実施曜日・時間確保・内容等について検証し、SSH4期目の申請に向けて研究内容の深化・充実を図る
		進路希望に応じた情報発信と意識の向上を図り、大学等との連携を通じたサポートを行う。	県内大学との連携事業 全校体制による進路指導の実施			
		SSH課題研究への取組を通して主体的に進路を選択する能力を育成する。	SSH課題研究の全校指導			
3	規律ある学校生活をととして、自らを律し行動できる力、規範意識や高い倫理観の育成を図る。	学校行事や課外活動、部活動をととして、主体性、協働意識を育み、道徳教育を推進する。	道徳教育指導計画の作成及び共通理解 家庭と連携した取組	・新入生オリエンテーションや強歩大会、部活動において、人としての生き方や在り方について、道徳教育指導計画に則して考えさせるよい機会となった。90%を超える生徒が肯定的な評価をしている。 ・豊かな心の育成や規範意識を高める教育に関しては約90%弱の保護者が肯定的な評価をしている。 ・小中学生との交流・連携を図ったSSH事業をはじめ各種ボランティアや地域行事への参加を通じて他者を思いやる心や社会貢献の意識が高まった。	A	・本校の教育活動や主体的・対話的で深い学びの視点を意識した授業を展開し、道徳教育や人としての在り方や生き方を考える機会となる全校体制で継続推進する。 ・道徳教育を推進するために指導計画の更なる見直しや、地域や保護者との連携を試み、「人を思いやる心」を育み、「規律と責任を重んじること」を徹底していく。 ・地域行事やボランティア活動等を生徒に周知し、参加を促していく。
		地域や関係団体と連携を図り、他者を思いやる心と社会貢献の精神を涵養する。	地域行事・ボランティア活動への参加 異校種間交流の推進			
4	安心でき信頼される学校づくりの推進に努める。	広報誌、ホームページ、学校ブログ等を活用して積極的な情報発信に努める。	広報誌、SSH通信の発行 定期的なHP更新	・学校パンフレットをはじめ、ホームページやブログを使った情報発信、学校説明会等、広報に注力し、保護者や関係者が安定した評価を得た。 ・学校行事に係る保護者の参加や協力機会が以前に戻ってきている。フードドライブでは生徒・保護者や地域の協力を得る取り組みとして実施ができた。 ・災害時の防災計画を周知したり、防災避難訓練を実施したりし、避難経路の確認や、身近に起こり得る具体的な行動・対応学ぶ機会を設けた。	B	・特に学校教育活動等の情報に注力し、広報関係を積極的に強化していく。学校行事だけでなく授業や部活動等、日々の活動を含め情報を発信し、保護者の理解も促す。 ・SNSの危険性を周知し、ルール・マナー徹底を図り、安全・安心な学校づくりを推進する。 ・自転車やバイクの運転マナーやモラル、情報モラル等の課題について、生徒が主体的に考えられる教育を推進する。
		PTA活動の様々な機会を生かして学校との連携を推進する。	広報活動及びPTAとの連絡の徹底 強歩大会への協力			
		災害や事故に遭遇した際の危機対応能力や危機管理能力を育成する。	避難防災計画の可視化 安全管理体制の徹底 保護者への情報発信			

学校関係者評価	
実施日 (令和7年2月14日)	
評価	意見・要望等
3	・文武両道への取り組みは良くされていると感じる。教員・生徒・保護者の協働によって成されている。さらに、国際的な視野やSDGsの多角的視野での取り組みに期待したい。 ・「4時間学習・2時間練習の確立」が示されているが、時間数だけでなく主体的な学びを引き出すことが必要である。 ・文武両道のイメージが明確になっていないのではないか。具体的などうなれば、どんな状態を文武両道といいのか、文武両道についてきちんと議論する機会が必要ではないか。 ・日々の努力を積み重ねることで、知識や技術だけでなく、挑戦する姿勢や粘り強さも養われている。今後も、生徒一人ひとりが自分の可能性を広げ、充実した高校生活を送れるような取り組みが継続されることに期待したい。
	・きめ細やかな教育の実践は、先生方の丁寧な指導によって行われていることが、生徒や保護者のアンケート結果から把握できた。 ・1年次より、3年後(卒業時)をイメージさせる進路指導等、より具体的な指導の更なる取り組みが必要であると感じた。 ・学校では、生徒の個性や希望に寄り添い、将来の道を具体的に描く手助けをしている。多様な進路選択肢を提示し、自ら考え決定できる力を養うことは、これからの社会を生き抜く上で非常に重要と考える。 ・SSHの中でもキャリアを考える機会が提供されているが、今後はインターンシップなどの職業体験を通して生徒自らが適性を考える機会が提供できるとよい。
	・いじめアンケートの数値が、1年生が高く、2年生が数名、3年生がゼロ名という点から、「自らを律し行動できる力、規範意識や高い倫理観」が、学校生活を通して育成されていることがわかった。 ・気持ちよく挨拶でき、校内にも荒れた様子がないこと等から、規範意識や高い倫理観が育成されていると推察する。 ・生徒にやる気、覇気、意欲があるならば、学校生活は規律あるものとなり、規範意識や倫理観をもつようになる。いじめをする「ヒマ」がなくなり人間関係が変わるだろう。 ・日常の指導から、日々の生活の中で、自ら考え行動する力や、他者を尊重する姿勢が培われて、生徒たちは責任感や倫理観を自然と身につけている。
	・災害対策について、山梨県は幸い大災害に襲われたことがないため、静岡県や長野県と比較して自治体の危機感が薄く準備は不十分である。このような状況で災害対策を行うのは困難かもしれないが、予算などの許す範囲でできる限り、生徒の安全を図ってほしい。 ・災害対策や防犯的な側面でのアンケート結果がやや低いと理解できる。例えば生徒も交えた安全対策ワーキンググループの設置、高校や周辺地域の防犯診断を自ら視点もち行う、SSHでの研究と実装など、あっても良いと思った。 ・開かれた学校運営や、生徒・保護者との丁寧なコミュニケーションを通じて、さらに安心感のある環境を整えていくことが重要であると考ええる。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。